

令和7年度「鈴鹿医療科学大学データサイエンス（リテラシー）教育プログラム」自己点検・評価結果

文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の自己点検・評価項目に従い、以下の項目について自己点検・評価を行った。

【学内からの視点】

1・教育プログラムの履修・修得状況、学修成果に関する事項

令和4年度から本教育プログラムを全学部の1年生を対象に開始し、令和7年度は4年目の実施となった。この教育プログラムでの修了要件となる授業科目「医療人底力実践Ⅲ（データサイエンス）」（1年秋期、1単位）は、医療人として不可欠な能力を育成すべきであるという観点から、全学のディプロマ・ポリシーに対応し、全学部の1年生での必修科目とし、本学の特色ある「医療人底力教育ⅠからⅣ」（全学部必修科目）の一科目とした。そのため、当初から履修率は高く、履修・修得状況は以下の表のようになつた。

表 対象学生に対する履修者（修了者）数の比率

学部名称	令和7年度			令和6年度		
	履修者数	修了者数	修了率（%）	履修者数	修了者数	修了率（%）
保健衛生学部	358	355	99.2	381	381	100.0
医用工学部	27	27	100.0	52	51	98.1
薬学部	75	74	98.7	81	78	96.3
看護学部	109	108	99.1	130	128	99.2
合計	569	564	99.1	644	639	99.2

学修成果に関しては、学生がデータサイエンス・AIについて興味を持つようになり、データの重要性、見やすい表の作成方法、Excelの関数の使用方法、グラフの作成方法に関して理解を深めた。また本学で実施している鈴鹿市福祉ロボット推進事業（自律動作支援をするための装着型サイボーグHAL）、データ・IT・AI技術、高齢化問題などに興味を示すようになった。

2. 学生アンケート等を通じた、学生の内容の理解度・他の学生への推奨度に関する事項

本学では、本プログラムを含む、すべての授業科目を対象とした学生アンケートを実施し、学生による授業評価・理解度等について把握している。本プログラムの授業科目に対するアンケートの分析結果の理解度に関する主な項目は以下のようになつた。

【アンケートの対象者・回答者】 対象者：644名、回答者：489名、回答率：75.9%

Q1 教員は授業内容をわかりやすく説明していましたか？

A1 強くそう思う 37%、ややそう思う 46%、どちらとも言えない 14%、あまりそう思わない 1%、全くそう思わない 2% → 良い評価：83%

Q2 教員は学生の理解度に合わせ、授業進行を工夫していましたか？

A2 強くそう思う 37%、ややそう思う 43%、どちらとも言えない 17%、あまりそう思わない 2%、全く

そう思わない 1% → 良い評価 : 80%

Q3 この授業はあなたの知識を深めるものになっていましたか？

A3 強くそう思う 39%、ややそう思う 44%、どちらとも言えない 13%、あまりそう思わない 2%、全くそう思わない 2% → 良い評価 : 83%

Q4 この授業の満足度を教えてください。

A4 強くそう思う 38%、ややそう思う 45%、どちらとも言えない 14%、あまりそう思わない 1%、全くそう思わない 2% → 良い評価 : 83%

【代表的な自由記述文】

1) いつも丁寧に教えていただき、授業ペースもとてもよくわかりやすい授業でした。ありがとうございました。

2) Excel のやり方を覚えることができて良かったです。

【アンケート結果のまとめ】この授業に対する評価の 4 項目とも良い評価が 80 %以上となっており、特に重視している満足度は 83 %であった。本プログラムの満足度の目標である 90 %には届いていないが、今後、高評価を得ている解説付きの画面動画などを充実させることを計画している。具体的には、学生が疑問に思っている内容、さらに深く学習したいと感じる内容などについて、学生が項目を選択して学習できる教材を充実し、学生の能力・興味・関心に対応するデジタル教材を増加させることを検討している。

【学生アンケートの公開】本学の e ラーニングシステム A-Portal で全教職員と学生が閲覧できるように公開している。

3. 全学的な履修者数・履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

本学では、全学のディプロマ・ポリシーに「保健・医療・福祉専門領域の最先端の進歩の状況を把握し、数理・データサイエンスを活用できる。」ことを明記しており、現在、このポリシーを具体化するために、このプログラムは、全学部・全学科の 1 年生の必修科目となっている。

また本プログラムは、全てオンデマンドの動画配信（計 48 動画）と e ラーニングシステムでの授業ごとの小テストへの解答（8 回）とレポートの提出（2 回）により成績を評価しており、かなり高いハードルとなっている。そのため、学習進度が遅い学生が出ているが、学生の学習状況を e ラーニングシステムで常に把握し、学習進度が遅い学生に対しては、学習を促す手厚いフォローを丁寧に行っており、毎年、95% 以上の修了率となっている。

このプログラムを開始してから 3 年目であり、4 年制の学部（保健衛生学部、医用工学部、看護学部）については、現在、収容定員のほぼ全学生が履修しており、6 年制の学部（薬学部）では収容定員の約 6 分の 5 の学生が履修している。そして、2 年後には全学生がこのプログラムを履修し、卒業する予定である。

【学外からの視点】

1. 教育プログラム修了者の進路・活躍状況、企業等の評価に関する事項

本プログラムの修了者は、まだ卒業していないが、本学の卒業者は、医療福祉機関をはじめとし、企業・自治体などの広い範囲で活躍している。それで、本プログラムを修了した学生は、社会の幅広い分野でデータ分析をする有用な人材として活躍することを多くの地域の人々は期待している。

2. 産業界等社会からの視点を含めた、教育プログラム内容・手法に関する事項

産業界からの意見を伺うために、ラーニングボックス社と本学が合同主催したWeb講演会「『医療系国家試験合格率100%』を実現した大学の学習管理システム活用ノウハウを大公開」（2025年9月10日）で「未来への展望：オンデマンド授業を成功させた体験」の講師を担当し、幅広い方からのご意見をいただいた。なおラーニングボックス社は本学のeラーニングシステムの開発会社で、2022年11月に産学連携協定を締結しており、新しい教育について、共同研究を行っています。

また三重県内の企業と高等教育機関の方に対して、三重県産業支援センターが主催している「データサイエンス研究会」で、「中小企業における生成AIの活用に関してすべての仕事が変わる」という題目の講演を2025年10月1日に対面（津市）で行い、本データサイエンス教育プログラムと本学のDXの事例を紹介し、産学官のデータサイエンスに関心がある関係者からの意見収集を行った。そこで、いただいた多くの意見をお聞きし、地域社会のデータサイエンスの要望（AIとDXの具体的な推進方法）を授業コンテンツに取り入れ、学生が就職後役立つ内容を取り入れた教育を実施した。

また地域の自治体からの意見を伺うために、鈴鹿市と意見交換会を実施しており、本教育プログラムについての意見も収集している。その結果、鈴鹿市から本学の教員に依頼された、鈴鹿市高齢者フレイル予防対策事業において収集した高齢者約200人の体力測定データの分析について、令和6年度の授業から、このデータを分析するEXCEL演習を取り入れた授業を実施した。